

4年前、スウェーデンで開催された時には選手として参加しましたが、技術委員長になりスタッフとして帯同するのがこんなに早く訪れるとは予想しておりませんでした。今回の日本チームはスタッフ、選手どちらも非常に若いかつ初めての海外遠征の選手も多かったことが特徴的だったと思います。

ユニバーは開催国によって運営も大きく変わり、4年前はトレキャンなども充実していましたが、2年前はほとんど自分たちで何とかするしかないという状況でした。今回は、なかなか出国間際まで予定が分からず心配ではありましたが、トレキャン本戦ともに大会運営者の方々の対応は充実しており、日本チームは良い準備をして本戦に臨むことができたのではないかと思います。

帯同してみてもスタッフから見た感想や今後の改善のために反省点などを記しておきたいと思います。成績などについては総括の方にまとめております。

1、セレクションについて

今回はなるべく多くの選手にチャンスを与えて、海外の大会への学生のモチベーションを高めるためにも枠はしっかり使って男女6名ずつ選出したいという思いがありました。なので、あらかじめ可能性のある選手には早めにユニバーへの動機づけを促したり、多少強引にでもセレクションへの参加を勧誘したりしました。

2、遠征までの合宿について

そもそも私が選手のような立場でJOA合宿には基本的にほとんど参加しておりましたので、わりと身近であるということもあるかもしれませんが、選手とのコミュニケーションはだいぶ取れていたのではないかと思います。しかし、ユニバー選手全員を集めるとなるとなかなか全員集まれる機会は少なく参加できるときは参加してもらおうという形にしかできず基本的にメールなどのやりとりが多かったかと思います。

3、大会の主催者とのやり取りについて

これはこれまでどのようにされてきていたのかわかりませんが、エントリー自体はウェブでできたので非常に楽でした。ただ、トレキャンに対する要望などなかなか大会の運営者も忙しいので頻繁にメールのやりとりをしてコミュニケーションを取っておく必要を感じました。

何度もメールをやり取りしているうちにトレキャンの宿の値段が安くなったり、現地で逢った時に話しやすかったりとたくさんメールしておいてよかったなと感じました。

4、本戦でのスタッフ活動

毎日朝からスタート地区へ向かい、選手を送り出してフィニッシュへ向かいゴールを応援し終わ

ったら宿へ戻り、晩ご飯を食べてオフィシャルミーティングに出て日本チームでのミーティングを行い、ブログを更新したらもう日付が変わりそうな時間と一日の中でもスタッフ作業がこれほど大変なのかというのが実感できました。個人的にはトレキャンの方がスタッフがいるべきでいろいろとサポートしてあげるべきだと事前には思っていたのですが、トレキャン中はむしろミーティングでも特に伝えることも無く技術的な指導などを行わなければ基本トレキャンは選手だけでも何とかするのはないかと思いました。オフィシャルミーティングや大会の本部などへ足しげく通っていろんな要望を伝えたり、配布物をもってきたりエントリーの手続きをしたり、など細かいことを全部英語で伝えないとイケなかったりと本戦が始まってからの仕事はこれは選手にはとても負担ですし、本戦が始まってからの方が仕事もたくさんありました。

選手に関しては、私から見た感じでは非常にリラックスできている選手も多く、また朝ジョグなど個人で調整してうまくコンディションを整えている選手が多かったと思いました。初めて海外遠征の人も多い中良い成績が出せたのは、周りに圧倒されずしっかりとリラックスできていたからではないかと思います。大会期間中スイス人コーチが食堂のテラスで個人面談やっているのを見て強豪国はどちらかというメンタル面でのケアが一番大事にしているのかなと感じました。そこで、ボブもあれをしたいということを書いてくれたのでトレキャンの最後に個人面談を行い選手が不安などを抱えていないかなどコミュニケーションを取って確認を行いました。思いつきで行ったので結果としてうまくいったのかどうなのかよくわかりませんが、話していてもみんなそれほど不安材料を持っていないことは確認できたので良かったと思います。

5、反省点について

スタッフとしての反省点としては全体での集合写真など、日本チームとしての写真をもっとしっかりと取っておくべきだったと帰ってきてから思いました。

あとは英語の能力はスタッフはあるにこしたことはないと思いました。ミーティングでも主催者に対して意見を出している国が多かったのも、日本チームも要望を強く競技的な所でも言えるようにスタッフには一人しっかり英語ができる人がいるのが望ましいと思います。

最後になりますがセレクションから JOA 合宿などで運営していただいた JOA のスタッフの方々、また一緒に帯同してくれたボブ、そして日本から本戦中応援していただいたみんなにとっても感謝しております。ありがとうございました。

